



平井伸治

鳥取県知事

住まうよう旅する時代へ

新しい生き方を提案する地域づくり

地方の時代と言われ、行政が中央から地域に軸足をおかないと日本が元気になる時代。その若きリーダーのひとりが鳥取県の平井伸治知事だ。

いま鳥取県はどういう位置にあり、どのような課題を抱えているのか。

今年、10月19日（土）から21日（月）にかけて鳥取県で開催される

「エコツーリズム国際大会2013 in鳥取」を前に、平井知事にお話をうかがった。

収録日／2012年10月9日

於／都道府県会館（東京）

インタビュー／高梨洋一郎（日本エコツーリズム協会（JES）理事）

エコツーリズムに
取り組むきっかけ
「住まうよう旅する」時代へ

高梨 エコツーリズムに取り組むきっかけと、その背景にある観光の視点からの産業も含めた課題についてお考えをお聞かせください。

平井 本来の旅とは、時間に追われた日常の生活や現実の喧騒から逃れ、自然界の時間の流れを取り戻すことにあるのだと思います。これからは、あわてて色々なところを駆け足で見てもわるいではなく「住まうよう旅する」時代に入っていると感じています。自然のリズムの中に溶け込み、生き物として体の中心からエンジョイできるような旅、人間の本性に近いものへと誘う旅、それは正にエコツーリズムの思想と合致していると思います。

鳥取県には、大山という神々しく人々に親しまれている山があり、美保湾、中海などの美しい水辺空間、広大なブナの原生林、砂丘、美味しい食べ物、里の営みなど、日本人にとって大切なけれども、忘れかけて

いるものが、そのまま息づいています。

産業革命以降、人間が自然を征服するという開発及び近代製造業の流れから鳥取県は取り残されてきたように思われました。しかし、だからこそ逆に、いま私たちのところにこそ本物の生きる価値があることを私たち自身が気づき、発想を転換していく必要があるのです。そのための具体的な取り組みとしてエコツーリズムの思想に共鳴したいと思いました。

取り組みのきっかけは2005年に皆生温泉で、今までの旅のスタイルでいいのか、観光が団体から個人旅行へと移行する中で選ばれるためにはどうすべきかについて話し合った研究会で、山田桂一郎JES理事にアドバイスをいただいたことです。恐らくこの課題はエコツーリズムに取り組んでいる多くの地域で言われていることだと思います。

かつては旅行会社に団体を送客してもらい、黙っていても商売が成り立っていました。しかし、個人型の旅行では地域の魅力を自ら発信し、受け地観光の商品を作っていかなければお客様に訪れていただけないのです。鳥取県では昨年「国際まんが博」を開催し、新しい魅力を付け加える取り組みも行っていますが、我々の本質からいけばエコツーリズムが切り札になります。

兼高かおる前JES会長をはじめ高梨洋一郎JES理事に旅行作家協会として鳥取県で特別例会を実施していただき、様々な作家と出会い、私たちはこういう旅のスタイルを目指したいのかなというのが段々



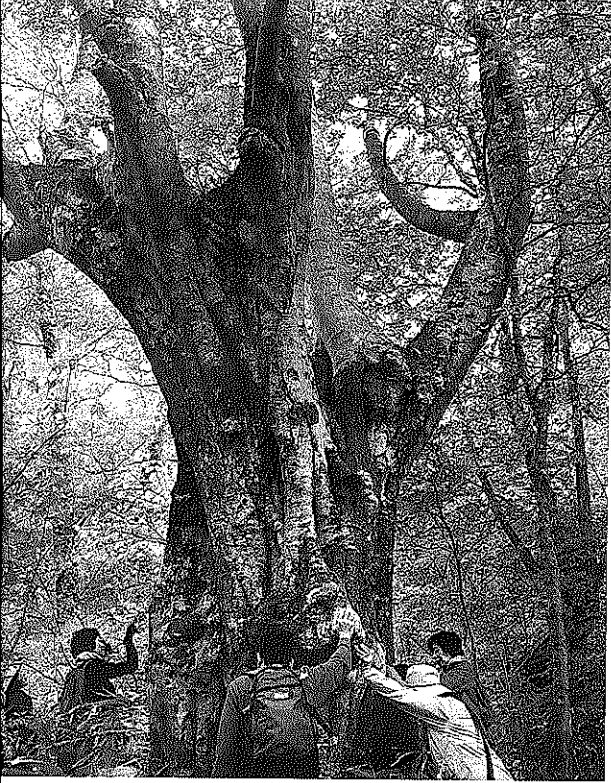
日本海から望む初冬の大山

と見えてきました。今、全県的に商品造成に取り組んでいます。

鳥取の魅力 神々が遊ぶ場所

平井 鳥取県の森林面積は74%を占めます。更に大山の山麓にはブナの原生林が広がり、森の豊かさや恵みに出会う機会はずば抜けていると言えます。それ故に今年の初夏に鳥取県で行われる「全国植樹祭」の開催地として白羽の矢が立ったのだと思います。

大山は、出雲王朝の時代から神々の住む山「神在山」と表現されてきました。その後、時代が変遷しても信仰の対象であり続け、西日本随一とも言われるほどの広大なブナの原生林が残されてきたのです。このような豊かな森、山を背景に鳥取県内には様々な種類の野鳥や、希少種のシジミチヨウが生息するなど、生き物



大山ブナの巨木。パワースポットとして親しまれているブナ

達のサンクチュアリーになっています。鳥取県のユニークなところは、生き物達のサンクチュアリーであるブナの原生林まで海から車で30分もかからずに行けることです。美しい美保湾の砂浜や海岸植生、皆生の温泉街、大山のブナの原生林などが、わずか30分の移動範囲の中に揃っている、そんな地域は他にあまりないでしょう。

エコツーリズムの広がり 周回遅れのトップランナー

高梨 海、森、そして人々の暮らしがある里地里山。旅の仕方が変わり、じっくり腰をすえて暮らすように旅する時代が来た時に、鳥取の持つている資源がとても豊かであることに気づかせるのはエコツーリズム型の観光ですね。

平井 そうですね。しかし、気づいてもらうためには地元も努力しなければ

ばいけません。私たちは周回遅れのトップランナーだと思っています。だいぶ置いていかれたと思いますが、時代が変わり、いつのまにかトップを走っている。前はどんけつじゃないかと言われたかもしれないませんが、今は「よう走つとるわ」と見えてきたと思います。

ただ、そのためにはお客様に楽しんでいただけるプログラムがもつと必要です。私たちはまず、皆生温泉と大山にそれぞれツアーデスクを設置し、造成したツアー商品を販売、運営を始めました。商品造成は実験的なツアーもたくさんある中で、サイクリングやシーカヤックなど、定番になり始めている商品や、トレッキングや座禅体験、街中の文化歴史探訪など、オプショナルツアー的な旅行商品が出来つつあります。

中でもサイクリングには力を入れており、「ツール・ド・大山」や「ピルクライムin大山」などのイベントを開催すると共にサイクリングロードを整備し、路面に地名などのサインを表示しました。

また、関西からの玄関口になる智頭町は、山深いところで慶長杉と言われる江戸時代に植林された杉林が残っており、一昨年から森林セラピーの取り組みを始めました。森林セラピストを養成し、森の中を歩くプログラムや、箸づくりの講座を設け、様々なメニューを用意し、森林セラピーの里づくりを行っています。昨年度は960人の参加があり、



上/皆生ツアーデスク (ツアーやレンタサイクルの受付窓口)
下/大山ダウンヒルサイクリング

エコツーリズム 国際大会に向けて 新しい生き方を発信

高梨 コンダクターである知事が旗を振ることで、取り組みやすさがあるのです。全国からみた時に、新しい生き方を発信しようとしているように見えます。

平井 小回りがきく理由はコミュニティが生きているからであり、顔が見えるネットワークと私は呼んでいます。大学の先生、資産家の方、旅館の主人、トレッキングのガイド、写真を撮っている方、大都市ではパラパラ存在ですが、うちはそれが一つのお皿の上のついでです。皆で「やらいや(やろうや)」と言うと、「じゃあやろう」となれるのは大きな力です。



この度、大山を中心として皆生温泉など県西部がかなり集まり、そこに「山陰海岸ジオパーク」や「梨の花温泉郷」など東部も中部も協力をしながらエコツーリズムの国際大会をやるという組織ができあがりまして、これも鳥取県ならではの組織だと思っております。

松下幸之助「観光立国の弁」

エコツーリズム国際大会を通じて、雄大な大山や美しい日本海と共に暮らしてきた日本人の営みだけでなく、再生可能エネルギーなど、新しい生き方を世界へ発信していきたい、参加者の皆様にも楽しんでいただくと思っております。

高梨 松下幸之助氏は昭和28年の『文藝春秋』で「観光立国の弁」を書き、その中で日本人は素晴らしい自然や文化などの資源があるにもかかわらず、売り惜しみをしていると言っていました。ものづくりの神様がその時代に観光産業を重要な輸出産業と位置づけ、観光立国を提唱していたのです。

日本は一つ山を越えたと違った文化(宝)があります。その象徴的なのが鳥取であり、海、山、多様な文化など、一つ一つをつまむものすごい資源がある。しかし、それらの宝はそのままで外の人にはよく見えないのです。外の人に見て知って体験していただくためには、宝に少し手を加え、参加しやすい形にして演出し、発信することが必要です。

平井 松下先生のお話は、慧眼ですね。外国の方と接して観光地について意見交換をすると日本の魅力として挙げられるのはデイズニー

ランドや東京などのテーマパーク、メトロポリタン以外に、もう一つは自然の美しさ。日本人はきれいに自然を守っており、素晴らしいと思われているのです。

打ち出していないと日本は選ばれていけないと思います。東京が上海、ニューヨークと比べ魅力があせていかなければ限りません。しかし、スイスのマッターホルンなど、変わらぬ自然は普遍的な価値があり、いつでもお客様を呼べる。自然の中で暮らすように旅する滞在型のエコツーリズムが本当に確立できれば、日本は観光立国として豊かな国になると思います。

高梨 まさに観光の新たな形を築くための実験ですね。象徴的に発信するのが日本におけるエコツーリズム国際大会の意義です。新しいエネルギーも含めて、古いものがあって新しいものがある鳥取から世界に向かって発信する機会にしたいだいたいと思っております。本日はありがとうございました。

エコツーリズム国際大会 2013 in 鳥取 開催

（住まいのように旅する）

森・里・海、水の連環と人々の営み

日時 2013年10月19日(土)、20日(日)、21日(月)

主会場 鳥取県米子市 BIG SHIP (米子コンベンションセンター)

- 内容案 19日(土)：開会式、基調講演、トークセッション、交流会
- 20日(日)：エクスカージョン、大山交流会、ナイトツアー
- 21日(月)：エクスカージョン報告会、大会総括、閉会式

主催 「エコツーリズム国際大会 2013 in 鳥取」実行委員会

共催 NPO 法人日本エコツーリズム協会

お問合せ 実行委員会事務局 TEL：0859-31-9373



平井伸治 (ひらい しんじ)

昭和59年、東京大学法学部卒業後、旧自治省に入省。在職中に兵庫県、福井県、鳥取県に出向。平成18年、自治体国際化協会ニューヨーク事務所長就任。平成19年2月に総務省を退職。同年4月に鳥取県知事選挙に初当選し、知事に就任。平成23年に鳥取県知事選挙に再選、現在に至る。